

校

報

昭五
和六
年號

名古屋電氣學校

新學期に當つて

虹 路

萬象にとつては全じ春だつた。

私にとつては始めての春だつた。

する事、なす事、總てが異つた立場の春だつた。だから私には、ものめずらしくもあり、むづかしくもあつた。あらゆる方面に求めた智識と經驗と、先輩諸氏の指導とにより、色々な事をやつた。だが待つて！人間は、その立場になると往々過去の事を忘れ勝である。私はそこに注目したそして種々なる事を、淺く廣くやつた。その中の一つ一つについては、各々先生に願ひした。そして、深く、つき進んで貫ふ事にした。成果は見られない。來年の頃には、少しづつ解つて來るだらう。

新學期が始まつて一段落だ。之からは僕一人の勉強だ。その余暇には諸君と共にスクール・ライフをエンジョイさして貫はふと思つてる。

こゝに諸君に、一言のべたい。それは、この新しい學期に對して、私は諸君に仕事を與へた。

又、要求もした。

仕事は飽かずに進めて欲しい。要求は、云はれる迄もなく、實行して貰ひたい。そして元氣よく最後の目的に進んで貰ひたい。

今は先生方も新しい方向に活動しはじめた。諸君も、多事多端であるはずだ。こうして職員先徒共力一致活動して進むのだ。

若葉萌ゆる陽々たる五月の青空も近き日だ。我等が躍動は全身よりほとばしる熱血と歎喜の叫びとなつて、天地に震ふであらふ。

一九三一・四・二〇

五月だ。樹木と云ふ樹木はすべて新鮮な若葉を微風にゆるがせてゐる。この五月の自然の濼澗さ、この元氣で我々もやらう。

出發点が大切だ

よく始められた仕事は既に八九分まで成就してゐるのである。最後の五分間も大切だが、最初一分間は更に大切だ。老人になつてからの十の努力よりも青少年時代の五の努力、三の努力が大きい仕事をなしとげる。學期末學年末の十日間の勉強よりも學年始めの二時間の勉強が貴い。

(H・K)

新學年の初めに當りて

和田 信 次

二十餘日の休暇を終り愈々新しい氣分と元氣を以て新學年を迎へることになりました。

新學年頭初に於ける諸君は誰も『今年こそは』と云ふ希望を以て緊張して居るでせう。又、そうなければなりません。希望は青年の生命であります。希望のない生活には活動も進歩もありません、そしてこの希望を達するには他力や僥倖を恃まず自分の力に依らなければならぬこと勿論であります。この精神の緊張は時日を経るに従て兎角緩み勝である、或は緩むのが眞當かも知れませんが、然し緩んだ心持ちで授業を受けて居ると其の内には學問に對する興味を失ひ、倦怠を覺えて遂には成績も面白くなくなるのであります、故に絶えず心を締め直して、今學年は一層優れた成績を以て進級し卒業する様に今日から心掛けねばなりません。

尙二年、本科の諸君は新入學の一年生諸君を自分達の弟として、これを可愛がり、善く指導して

やつて欲しい、上級生として模範を示してやつて貰ひたい。一方一年生諸君は上級生諸君を兄として敬愛しなければなりません、この學校にはこの學校の校風、校則が有りますから解らぬことは上級生の人達にも尋ねて、正しく指導して貰はなければなりません。斯くして本校生徒諸君は一家族に於ける兄弟の如く、仲よく相助けて、快活に元氣に勉強して欲しい。殊に新入生諸君は『今日からは小學校の兒童ではない、中等學校の生徒になつた』と云ふことを自覺しなければならぬ、英國の諺に『馬を川端につれて行くのは人の力だが、水を飲むのは馬自身がする』と云ふ事がある。この点を篤と考へて貰ひたい。

最後に申述べたい事は前年に於ける學業優秀者及精勤者で夫々賞狀、賞品を授與された者が九十餘名あることである、即全生徒の約四分の一が特に眞面目に授業を受け勉強したのであります、其他にも病氣等のために授業を休まねばならなかつた人もあるでせうが今學年からは一層健康に注意して缺席・遅刻等のない様にされたいと思ふ。

火力發電所見學の仕方

岩 井 廣 一

發電所を見學する場合何等豫備知識なしに出掛
け、案内者の説明も騒音のため充分聴き取れず、
結局これが汽罐でこれが蒸汽タービンでこれが發
電機だと云ふこと位を見て來たのでは素人の見學
と少しも變りなく誠に情ない次第である。將來小
壯技術者となる云は、技術者の卵である諸君が貴
重な時間をさいて見學する以上何か掴んで來て貰
ひ度いものである。

私が拙文をも顧みず火力發電所見學の仕方を述
べようとするのも其老婆心からである。幸にして
少しでも其目的が達せられれば非常に満足である
通常大發電所では石炭を焚いて蒸汽をつくり蒸
汽の力で蒸汽タービンを廻し従つて發電機を廻し
て電氣を發生さすのであつて、この方式の發電所
を蒸汽力發電所と云つてをる。瓦斯力發電所など
も火力發電所であるが此處では説明しないことに
して、専ら蒸汽力發電所のみについて述べる。
抑も電氣は一種の『勢』である。平易に言へば

『力』の様なものである。そうして此勢は他の形の
勢に變換することは出来るが決して吾々が造り出
す(創造)ことは出来ないものである。だから蒸
汽力發電所では汽罐に於て空氣の力をかりて石炭
を燃燒し水を蒸發せしめて蒸汽をつくる。即ち此
處で石炭の有する化學的位勢力を熱的活勢力に換
へ、次に蒸汽タービンに於て蒸汽をして其車軸を
廻さしめる。即ちこゝで熱的活勢力を機械的活勢
力に變へる、そしてこのタービン軸の廻轉は發電
機軸の廻轉を促し此處に始めて電氣的活勢力の姿
に生れ變るのである。斯の如く蒸汽力發電所の主
要設備は發電機とこれを廻轉する原動機(蒸汽タ
ービン)と石炭、水、空氣の三者の接觸を掌る汽
罐とであるが、其他所内に設備さる可き補助機は
非常に多いから是非これ等を系統分けにして何
系統にはどうゆう機械設備があるかと云ふ風に知
つて置かねば實際見學に際してよく解るものでは
ない。そこで私は燃料系、水系、空氣系の三系統
とそれに電氣系を加へて四系統に分け、一つの系
統に屬する諸設備を説明しながら他系統との接觸
狀況を示さうと思ふ。

處で火力發電所の位置は如何なる点を考慮して撰定されるかと云ふに、先づ性質上需要地附近でなければならぬ。それから發電所の常食たる石炭の運搬に便利で凝汽器に使用する冷却水が豊富で汽罐給水が良質で尙其他用地の地盤が強固で且つ廉價である点などある。故にこの考を以て發電所の所在地を見ると成程と思ふ節があるに違ひない。さて第一に燃料系であるが普通使はれる石炭は有煙炭で、船舶又は汽車で運ばれて來たものは起重機若しくは人夫によつて一應發電所構内の貯炭場に山積されて一、二週間は貯藏されるものである。あまり長く貯藏することは金利の高い時には損であるのみならず風化して發熱量は減するし若し硫化鐵の様なものを含有してをれば自然發火の悞れがある。汽罐に石炭を給するには人力の場合には手押車やトロにて運んで汽罐前のホッパー(石炭受)に適宜投げ込むのであるが、大きな發電所では普通バケットをいくつも連ねた無端鎖運炭装置によつて梁上のコールバンカー(石炭置場)に半日乃至一日分位の石炭を運んで置いて隨時管を通じて各ホッパーに流下配給しこれより更に自動

的に汽罐の火爐に給炭するのである。此自動給炭機には火床全体が無端鎖型になつてゐて夫れが絶へず廻轉して漸次石炭を奥に送入するもの或はピストンの前後運動によつて火床の下部から押し込むもの或は火床全体が奥へ傾斜してゐて震動によつて漸次送入するもの等がある。燃焼した灰は自動的に下方の灰道に落ちトロで屋外に搬出されて更に埋立などに處理されるのである。無端鎖運炭装置を使用してゐる所では販りのバケットを使つて搬出され又近時は灰道に水を流して灰を流し出す所もある。

次に水系に於ては冷水を直接汽罐に給すると罐を損傷するのみならず湯垢を生じて熱の傳導度を低下し従つて多くの燃料を要することになるから汽罐給水前に抽汽(蒸気タービン内から引き出した蒸気)或は排汽(蒸気タービンで働きを終へた蒸気)を利用して水を温めるのであつて、これを温水器と云ふ。給水豫熱装置としては尙この他に煙道の廢熱を利用して温める節炭器と稱せられるものがある、これは多數の管を煙道中に縦に配置したもので熱ガスが其間を通過する時管中の水を加熱

するのである。密閉型温水器も丁度これと同じ様な構造で只熱ガスの代りに蒸気が通るに過ぎない。さて汽罐は概ね水管式でバブコックエンドウイルコックス汽罐などがよく採用されてゐる。故に豫め温められた給水は各汽罐の水管中にて加熱せられ蒸気となつて上部のドラムに至り更にU字形の過熱器に入つて過熱せられ高温度高壓力の過熱蒸気となり一つの母管に集まる、そうして母管から更に分れて各蒸気タービンに導かれるのである。大きな発電所では一旦高壓タービンで働いた蒸気を罐上の再過熱器に送つて加熱しこれを低壓タービンに送る處もあるが兎に角蒸気タービン内で精一杯仕事をなし壓力を減じた排汽は一般には下方に設備せられた表面凝汽器に導かれこゝで數多の水管中を通過する給水に熱を奪はれて凝縮し器内の氣壓は著しく下る、この凝縮した蒸気及凝汽器内に漏入して來た空氣は下部から空氣ポンプで排出せられ温水器節炭器を経て再び汽罐に給水されるのである。空氣ポンプには凝縮した蒸気即ち温水と氣體とを一所に排出するものと温水と氣體とを分離して排出するものとあり又冷却用水は循環

ポンプで循環されるもので表面凝汽器の時は海水を使ふことが出来る。若し用水の豊富でない時は冷却池とか冷却塔などを設ける必要がある。

次に燃焼には是非空氣が必要であつてこの空氣を供給するには通常罐前火床下に空氣の入口を設け罐の後又は上に出口を設けて煙道に導き更に煙突に導いて空中に吐出させるのである。煙突は其内部と外部との壓力の差によつて空氣吸込力即ち通風力を生ずるものであるが煙道内に節炭器などがある場合には煙突の通風力だけでは不充分である。そこで一般には機械的通風が行はれる。即ち汽罐の外部に送風機を置いて火床の下から空氣を押し込んだり或は煙道に送風機を置いて汽罐内に眞空を作り空氣を吸ひ込ませたりする。尙近時大発電所では煙道の廢熱或は抽汽を利用して空氣を豫め温めて使用する爲空氣豫熱器を設備する様になつた。

最後に電氣系であるが其の主要設備は發電機とこれに附屬する配電設備であつて、これに就いては少し細しく述べて見たい氣もするから又の機會にする。

數學講座
順列及び組合

林 泰 三

本科になつて諸君は高等數學として解析幾何學及び微分積分學の初歩を學ぶ筈である。然し乍ら時間の關係上高等代數學に就いては殆んど何等の智識をも與へられない。此点は私の常に残念に思つてゐる所でありますが、幸に本誌の一部を此講義の爲に利用することの出来る様になつたことは諸君の爲に誠に嬉しく考へる次第であります。

此講義では本科の方は勿論のこと、豫科の方にも充分判る様に述べる考ですから、豫科の方もよく了解して戴きたいのです。

順列の定義

今 1, 2, 3 なる三數字があります。

此中から二數字を取つて二桁の數を作ると幾つ出来ますか。

此問題は次の如く考へます。先づ十位の數字は 1 になるか、2 になるか或は 3 になるかの何れかですから

十位の數字 1 なるものは 12, 13
 十位の數字 2 なるものは 21, 23
 十位の數字 3 なるものは 31, 32
 以上六つの數が得られ、これ以外にはないことが判りましやう。全く同じ考へで 1, 2, 3 から三桁の數が幾つ作れるかと申しますと

- 百位の數字 1 なるもの 123, 132
- 百位の數字 2 なるもの 213, 231
- 百位の數字 3 なるもの 312, 321

これも矢張り以上六つの數が得られ、これ以外には作れませぬ。

扱 1, 2, 3 なる三數字から二數字を取つて二桁の數を作ると幾つ出来るかといふ問題は、之を言ひ換へると 1, 2, 3 なる三數字の中より任意の二數を取つて、これを 一列に列べる列べ方は幾つ出来るかといふことになります。何故なら 1 と 2 なる二數字を取つて一列に列べてみると初めに 1 を、其次に 2 を列べると 12 となり、初め 2 を列べ、次に 1 を列べると 21 となります。又 1 と 3 なる二數字を取つて、之を一列に列べるには、初め 1 を、其次に 3 を列べて 13 となり、初めに 3

を、其次に1を列べて 3^1 が出来ます。最後に2と3なる二數字を取つて、之を一行に列べますと 2^3 と 3^2 が得られ、結局總計六つの數が得られることになりました。

扱て此で諸君と共に研究し様と思ふことは結局此列べ方が幾つ出来るかといふことにあるのです。數字の代りに文字を用ひ、今一度、念の爲、今迄のことを述べさせて戴きますと

a, b, c 三文字中から二文字を取つて、之を一行に列べると列べ方は次の六通であります。

ab, ac, ba, bc, ca, cb

又此三文字から三文字を取つて列べる列べ方は次の六通りです。

$abc, acb, bac, bca, cab, cba$

此様に三文字中から二文字を取つて之を一行に列べる列べ方の各々を

三文字の中より二文字宛取る順列といひます。

此事柄を一般的に申しますと

n 個の物の中より任意に r 個宛取つて、之を一行に任意の順序に列べる列べ方を

n 個の物より r 個宛取る順列、或は n 個の物の

r 順列といふ

此が順列の定義であります。

相異なる n 個の物から r 個宛取る順列の數を表すには P_r^n なる記號を用ひます。上の例で a, b, c から二個宛取る順列の數は P_2^3 で、 a, b, c から三個宛取る順列の數は P_3^3 で表します。

$P_2^3 = 6, P_3^3 = 6$ なることは上の例から判ります。一般に P_r^n を求むることは後に述べます。

2 組合の定義

或工場に三つのモータがあります。此中二つのモータを運轉しやうとすると運轉の仕方が幾通りありますか。

此問題を考へる爲に三つのモータを a, b, c で表しますると此三文字から二文字を取る取り方が幾通りあるかといふことでもありますから a と b との二つを取つても宜し、 a と c を取つても或は b と c を取つても宜しい。即ち三通の取方があることになりました。

此様な取方の各々を a, b, c より二文字宛取る組合といひます。

同様に a, b, c, d から三文字宛取る組合は

abc, abd, acd, bcd の四通であります。此で a, b, c は a と b と c との三文字を取る意味です。

之を一般に申しますと n 個の物の中より任意の r 個を取る取方の各々を

n 個の物より r 個を取る組合或は n 個の物の r 組合といふ

これが組合の定義であります。

相異なる n 個の物より r 個宛取る組合の数は

${}^n C_r$ で表します。先の例で a, b, c より三個宛

取る組合の数は ${}^3 C_3$ で表され、a, b, c, d より

三個宛取る組合の数は ${}^4 C_3$ で表されます。

${}^3 C_3 = 3$, ${}^4 C_3 = 4$ なることは先の例で明です。

一般に ${}^n C_r$ を求めることは後に述べます。

〔注意〕 ${}^n P_r$, ${}^n C_r$ は相異なる n 個の物より r 個

宛取る順列及組合の数を示す記号ですから n 個の物の中、同じ物があるときは此記号は用ひられませぬ。

例へば a, a, b から二文字を取る順列は aa, ad, da の三個で、組合は

aa, ab の二通ですが a, a, b は相異なる三文字でありませぬから、此順列及組合の数は ${}^3 P_2$, ${}^3 C_2$ で表してなりませぬ。

(ついで)

光風軒漫咏

衛院觀花

痾癖半生與俗違

烟霞時節在家稀

低徊坐愛春院晚

月入櫻花人未歸

三方原

欺敵開門彼一時

英雄佳話萬人垂

桃原日暖春千里

靜見飛花拂斷碑

車窓忘牘

僧房拈句夢難成

也向春風春水行

李白忘機吾失牘

轉歡車憲能持清

初等物理學
講 座

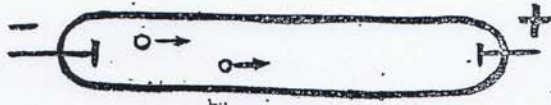
物質と電氣

こ わ だ

2 電子の發見

今月は電子が發見さるゝに到つた逕路をざつとお話し、やう。

先づ眞空放電のことから始めます。通常の壓力の空氣は諸君も知つてゐるやうに電氣の不良導體で、二つの電極の間に空氣があるときにその間に火花放電をさせるためには電極の間が僅か一センチへたつてゐても四萬ボルトくらゐの電壓が要ります。ところが第一圖のやうに電極をガラス管内に封じ入れて管内の空氣を排氣ポンプで抜いて稀薄にするとこの放電が容易になります。そしてこの時管内の氣體は各氣體に特有な様々な美しい色の光を發します。管内の氣體の壓力は水銀柱で0.1-0.02 ミリメートル程度です。この程度の管をガイスレル管と云ひます。最近夜間の廣告に盛に使用されつゝあるネオン管などもこれに屬します。管内に空氣を入れる代りにネオンやアルゴンなどを入れてあるのです。ネオン管の内部氣體の壓力は0.1ミリが普通です。もつと空氣を抜いて氣壓百分の一ミリから千分の一ミリ程度にしますと再び放電が困難になります。このやうな管をクルックス管と云ひます。この管内で放電を行



Du-1

圖 一 第

ふさ、先のやうに管内に廣がる光輝は無く、たゞ陰極に向ひ合つたガラス壁が綠色の微光を發します。この微光は管内に空氣以外の氣體を入れた時にも異なるところがありません。これは陰極から或る放射線が直進してガラス壁にぶつかりこれに螢光を發せしめるのです。この放射線を陰極線と名づけます。放電を止めれば勿論この微光は消えて了ひますが、又途中に金屬板を入れて放射線を遮ぎるとその部分だけ微光がなくなつて陰影を生じます。特に注目すべきことは、磁石を近づけるとこの放射線を近づけるとこの放射線が進路を曲げることです。その様子は丁度電流の流れてゐる針金に磁石を近づけた時に針金が動くのと變りません。第二圖の左端Kが陰極、Aが陽極、Aの小孔から陰極線はNへ進む筈ですが磁石を近づけた、めに曲つてFに向ひます。右端は驗電器です。

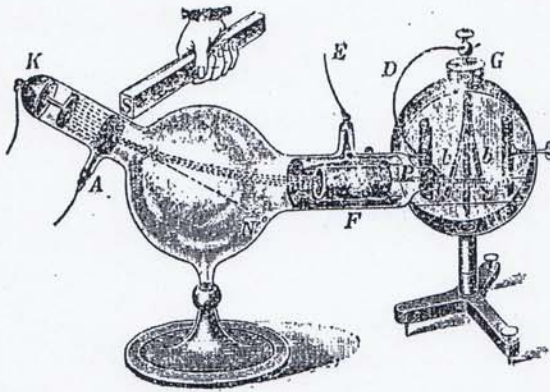


圖 二 第

進む筈ですが磁石を近づけた、めに曲つてFに向ひます。右端は驗電器です。進路の曲り方から考へると放射線の進む方向が電流の方向と反對ですが、それで説明がうまくつきません。この放射線を調べるに陰電氣を帯びた微粒子の速い運動であることが分ります。通例針金の中なごの電流の方向は正電氣の動く方向であらはずことになつ

ふさ、先のやうに管内に廣がる光輝は無く、たゞ陰極に向ひ合つたガラス壁が綠色の微光を發します。この微光は管内に空氣以外の氣體を入れた時にも異なるところがありません。これは陰極から或る放射線が直進してガラス壁にぶつかりこれに螢光を發せしめるのです。この放射線を陰極線と名づけます。放電を止めれば勿論この微光は消えて了ひますが、又途中に金屬板を入れて放射線を遮ぎるとその部分だけ微光がなくなつて陰影を生じます。特に注目すべきことは、磁石を近づけるとこの放射線を近づけるとこの放射線が進路を曲げることです。その様子は丁度電流の流れてゐる針金に磁石を近づけた時に針金が動くのと變りません。第二圖の左端Kが陰極、Aが陽極、Aの小孔から陰極線はNへ進む筈ですが磁石を近づけた、めに曲つてFに向ひます。右端は驗電器です。

てゐますから陰電氣の流れる方向とは丁度正反對です。従つてこの放射線の磁場に於ける「ふれ」の方向はやはりフレミングの規則に合つてゐます。

この放射線が何であるかについてゴルトシュタインと云ふ學

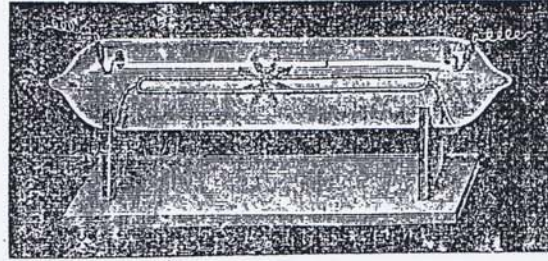


圖 三 第

者は一種の波動であるとしクルツクスと云ふ學者は微粒子が高速で動いてゐるのであると考へました。第二圖のやうに羽のついた車を管内に裝置して陰極線をあてるに機械的な作用を受けて車が動きます。又金屬に衝突して熱を生ぜしむることや、右の磁場に於けるフレなぎからクルツクスの考への正しいことが分つて來ました。

此陰極線の微粒子こそ我々の問題になつてゐる電子なのです。陰極線が電子の高速の流れであることは前にのべましたが、それでは一体どのくらゐの速度で飛んで行くのであらうか。J・J・トムソンの一實驗の結果からは電子の速度は毎秒 1.5×10^{10} センチと計算されてゐますがこの値は管内の氣体の壓力、電壓の大きさによつて變ります。しかも驚くべき速さで、光の速さ（毎秒三億米）の三分の一に近い場合さへあります。一秒間に十萬軒くらゐは珍しくはないのです。

文章問答 (その二)

五 風 山 人

先生「今日は、文章の書き出しについて、思つてゐることを話して見よう。」

生徒「有りがたうございます。私は、筆を執つても、何から書いたらいいか。又、一番始めに何を書くべきか、何時も迷つてばかりゐて、たうさう、何も出來ないので困ります。さうぞ教へて下さい。」

先生「さうだ。實際、文章の書き出しには誰も困るのだ。ある題目が與へられると、「何から書いたらいいたらう？」と、迷ふものだ。是については、小泉八雲先生（ラフカヂオ・ヘルン）が申して居られるから、自分は、この大先生のお説を拜借して君にその要点を話さう。」

「哲學とか、評論とか、歴史とかは別であるが、文學的な作品を表現するものを、書く場合には、決して、書き出しをしないことである。」……と。

「このことについて、少し自分は説明をしよう。」

「自分の思つてゐること、又は、ある題目が出たら、それについて、一番深く感じてゐる點、又は、題目について、中心となるべきものを捕へて、その中心物を一番先きに書き出して見るのである。ごく大膽に、思ふがままに、その中心點を離れないようにして書き出すのだ。中心點をにがさぬことに心がけて、

半行なり、一行なり書き出して見ると、自分の考へがたんに出てくる。若し一、ほつんと途中で筆が止る。さうした時は又外に思つてゐること、或は、他の想が湧いて來ることがあるその時は、それを書いて見る。さうして、ほつりほつりと、切れ切れのものが、二三行、又は四行か五行も出來てくる。今度は、しばらく、筆をやめて、第一行から、黙讀を二三度やつて見る。さうして、また、考へる。考へがまごまつたら、また、書くかうして、つねに中心點を目がけて、書いては讀み直し、讀み直しては書いて行く。さうしてゐるうちに、何か一つのものが出來上る。そこで、全文をよくくり返して讀んで見る。讀んでは直し、直しては又讀む。かゝることを幾度もくり返してゐるうちに、次第に、不要な部分はけづられ、足りないところは書き足され、次第に、目鼻がついて、よい形に直されて出來上るものだ。つまり、文章を書く時には、先づ中心點を離れないようにして、それから、心に浮んだまゝを、筆のすゝまゝ、に書き出したらいゝ。ぐすゝとして迷つてゐたら、何時までか、つても出來上りはしない。そんな大家でも、決して初めから、名文も傑作も出來る筈ではない。トルストイの「戦争と平和」といふ大作は、七度も八度も書き直されたものたといふことだ。さにかく、書き出しを考へずに、何でもよいから書いて見るのだ。試みなくては何事も出來はしないから、恐れずに。大膽に、自分の思ふまゝをぐんぐんと筆に任して書いて行くことだ。文章を書く第一歩である。さうして、さにかく、一文章が大膽出來たら、何度さなく低い聲で音讀をするのだ。低音で獨り讀んで見る。さうしてゐると、下手なところや、いらぬ

ころが、自然とわかつてくる。それをけづり取る。又、何さなく言ひ足らぬ部分も見出される。そこを言ひ足す。かく加除をやつて行く。さうすると、たんだんにきすのしない完全なものに出來上つて行く。つまり、推敲されて、遂に、よい文が出來ることになるのである。」

「この交章の書き出しについて、小泉先生は面白い話を書いて見えるから、それを聴かしてあげよう。」

「私は、數年前京都で、日本の畫家が、馬をかいて居るのを見て驚いたことがある。彼は上手に馬をかいた。しかし、彼は常に馬の尾から書き出した。ところが、馬の頭からかき出すのが西洋の規則である。何故に尾から書き出すのか、私は不思議に思つた。しかし、私は、反省して見て、えがかうさするところを眞によく了解して居さへすれば、尾、頭、腹、足、その何からかき出しても、全く畫そのものには關係しないといふことに気がついた。そして、自分のかかうとするところを眞によく承知してゐる名匠は、他人の規則には従はない。彼等は自分自身の規則を作る。」

皆各々、自己獨特の方法で勞作する。(傍線は筆者が引いた。)そしてその獨特の方法は自ら最も適せりと認めたところのものである。文學に於ても、同様のことを云ひ得る。そして、「如何に書き出すべきか」の問題は、問題にならないといふことが了解されたと思ふ。……中略……即ち、先づ最初に頭に浮んで來た思想、若くは、情緒を開展させ、決して、「その次」を考へないことである。「その次」は、第一を勞作してゐる間に、自然と心に浮んで來る。若し、二つ三つ若くは、四つの非常に、情緒

又は、思想が同時に浮んで来たならば、それらの中、最も力強いものか、或は最も興味あるものから始めるがい。〔下略〕
〔附記〕本文中の小泉先生の言葉は、「小泉八雲全集」及び、今東光氏の譯書、「文學入門」の文を参考とした。學生諸子は、是非小泉八雲の全集について親しく讀まれんことを望む。
(昭和・六・五・一)

驛傳競争

五月三十日 本校開校記念の第一回驛傳競争を舉行する。各學年各組より選手三十二名を出して 出發点聚樂園より次の八つのコースを走る。

- 第一コース 聚樂園——名 和
 - 第二 名 和——しばた
 - 第三 しばた——大江
 - 第四 大江——氷室
 - 第五 氷室——神宮前
 - 第六 神宮前——專賣局
 - 第七 專賣局——記念橋
 - 第八 記念橋——本校
- 多少の變更あるかも知れず詳細は追て發表す。

コース下檢分

五月三日(日)午前八時學校を出發し自轉車を利用して豫定コースを逆に調査した。一行は後藤先生、小和田先生、淺野、榊原、大島、西尾、那可、服部、千賀の九名である。コースの實際の長さ道路の地質、紛はしき分岐点、電車汽車の踏切の位置等を調査して午後一時歸校。

劍道部記事

一九三一年陽春再びめぐり來り百花研を競ふ四月十五日、我等年來の宿望である劍道部が、後藤先生の絶大なる御盡力により孤々の聲をあぐ。我等數名の喜び如何許り。

さて部員募集だ。先生と私達で何人位入部するたらうと懸念せしも瞬時、志を同じうして投じ來る者四十名、(二年生以上)の多數に達す。再び喜びを大にす。

「共同一致」是が私達へ先生より與へられた金言だつた。そしてさゝやかながら部としての營が始められた。

創造!! 創造ほざ希望に輝くものはない。けれど創造ほざ多事多難なものはない。私達は忙しい先生を無理矢理引張り出してはひたすら道具の充實に御心配かけ、又實力の養成に御指導願つたそして無我無中に精進した。私達はまた赤ん坊だ。一人で歩けないのだ。兄の様に若い先生の熱と意氣に引づられて三週間劍の道へ、劍の道へと乾坤一擲永劫に榮ある我が劍の道へと一所懸命専心進んだ。私達は若いのだ。若きが故に、たぎりたつ、るつほの如き勇氣に燃る血潮もあれば、華なる理想もある。理想の實現に向つて適進する所に我等若人の生命がある。我等同志よ。のびよさびこめ、打て。大地をけつて宇宙に向つて、のびるのは、叫ぶのは、我等若人のみに與へられた得權ぞ。

練習道具は九ツしかない。道場はない。されど我等の劍に對する探究欲は百パーセントだ。授業が終ると第三教室は部員の手により廣げられる。こゝにも共同一致が見出たされる。そして四間

に六間の急製造場が出現する。練習だ、練習だ。先生のプランたてられた、合理的の練習法と、御指導により、一途に練習にいそしんだ。その間、部員の爲に控室が地下室の一部に與へられた部員一同の共同作業は、のみの音、つちの音になつて不器用ながら出来上つた。休息はこゝにて満足にいそなまれる。一日、一日部員等の手によつて控室は美しく改造されて行く。私達はそれを見ては心ひそかに、ほゝゑむのたつた。そして斯道への精進だつた

四月二四日、金曜日

劍道部創立祝賀茶話會が開かる。

部長御出席、部員に對しての御訓辭あり。後、マネジアー選挙に移り、和氣アイ〜裡に満場一致千賀君當選す。

千賀君就任アイサツあり。同君の御奮闘を切望す。

こゝに一言す。

部の發展は部長、師範、マネジアーに、その人を得るか、否かにあるのだ。

幸に我等は、我等の先生を部長に且つ師範に、今こゝに千賀君の當選を見、まことに我等は部の向上に光明を抱いた。部員一同よ、我等は、この部長、マネジアーの下に、共同一致、欣喜躍々、修養と鍛練に邁進し、電氣學校スピリットは劍道部より出づの聲なさしめん。

五月二日、第一回校内劍道練習試合舉行さる。

審判、部長

1 {三浦 コメ
中 原 コメ

短評 兩君共に二年生、來年度の劍道部を貧ひたゝんと囑望せられる人。三浦急に攻むるを中原よく防ぎ巧みに後先を利用して

押小手に先づ一點をさる。三浦勇奮面を攻めて一點を回復してセーム。兩者自重して接戦數合に渡りたれど再び攻むる三浦の面功を奏して最初の勝は三浦が得る。

2 {唐垣 コメ
稻 垣 コメ

短評 立合ふや間合よりのびる唐渡の面は陣容未だ固まらざる稲垣にさんで先一點をさり攻法變へて小手をネラふ。稲垣奮激無二無三に攻むれば唐渡や、休勢みたれて面に死してセームとなる。唐渡功老なり。たちまち間合外にのがれ、しばし呼吸をばかり居りしに矢庭に遠く面を攻め遂に二點を得る。

3 {矢田 コメ
阿 部 コメ

短評 本日の試合中の白眉なり。阿部の攻撃最初よりするごとく充實せる氣合は満場を壓す。矢田本科生新進の武者たり、巧みに鋭鋒をさけて攻む。兩者虛々實々、あるひは處女の如くあるひは脱兎の如く靜まるる見れば林の如く動く見れば走雲の如し一同手を握る。阿部あせりて小手に攻めたるを矢田たくみに外づして後先の面は見事一本となる。利なるかな阿部、たちまち變じて守勢となり自重す、一點を先取せる矢田氣勢大にあらがり攻勢はげしく面を大きくのびるや阿部のチャンス、押へ小手はさんで一點を得てセームとなる。その後兩者よく戦ひ秘術をつくせしが阿部に一日の長あり無我の境地より打ちたる洞見事に當りて矢田無念の涙をのむ。

4 {瀬谷 コメ
河 村 コメ

短評 攻撃の急なる瀬谷の爲に河村立なをす暇なく胴をさる。河村奮然として攻め小手を得てセーム。後河村腕力にぶく、瀬

谷の爲に面をさらる。

5 大井 内
メ コ

短評 兩者共に元氣なく間合をとりて自重す。大井の劍先起りたるを見るや、スルスル大井の竹内に接し行く、たちまちのびる面に竹内防ぐあたはず、大井元氣を得てよく攻め小手を取りて勝つ。

6 廣田 佐藤
ド メ メ

短評 猪の如く突貫する廣田の平常練習時の面がかたくならずよく當りて先づ一點を得、佐藤切齒して攻め、たちまち胴を得てセームとなるや廣田再び突貫して勝名乗をあぐ。

7 坂野 野田
コ メ

短評 濱そたちの勇猛武者野田の攻撃はげしくて坂野手も足も出ず、小手を打たれ面をさらる。されど坂野よなげくなかれ、練習未だ日淺きなれば。

8 矢野 伊藤
コ ド

短評 兩者共に本科の重鎮なり。然して本部創立に際しての功勞者、勝負も亦見物ならん、集目期せずして此の試合にそゝがる兩者除るに立上るや氣合攻めにて嵐の前の靜寂たり、無氣味の沈黙は觀者の口をおもむるにふさぐ。春の宵おぼる月夜の空の如く横コとしていづれの勝勢か明かならず、たちまちのびる伊藤の面、カツ、見事一本となる。一點を先取せられたる矢野自重してあせらず、さ思ひきや、意表に出づる小手は、たちまちにして同點となる。こゝに至つて靜寂は破られ兩者の秘術こゝ

に傾注せられたりやさ覺はしむる激戦なり、不運なり伊藤、矢野の胴を受け損じて遂に矢野に名をなさしむ。

9 仲村 筒井
メ コ メ

短評 部員きつてのおとつさん、仲村最初に小手を斬つて一點をさる、筒井靜劍なり、輕々のびたる面、呼吸にピッタリ合つて一本となりてセーム、おとつさん勇奮攻撃をげしくして面を打てば是はまた見事なるかな、遂に若い者に花が持てず仲村の勝。

10 大林 柴田
コ コ

短評 年少組の名組合せなり。大林得意の小手、面に見せて對者の小手を明けるや直に小手を打つ法、巧みに定まつて一點を先取、柴田もさる者勝に乗じて攻め來る大林の小手に虚あり。銳眼みのがさず直に打つて同點となり、こゝに兩者先途と相争ふ、されど惜しきかな柴田、前車の轍をふみて再び大林得意の小手に涙をのむ。

11 山田 島
ド メ

短評 大島よく攻むれと遂に當らず胴をきられ面をさられて退く

12 橋爪 鈴木
メ コ

短評 双方立上るや橋爪捨身の面功を奏して一點を先取、鈴木あせらずシリ／＼迫りて面を返し兩者同點、立合數合橋爪利あらず鈴木に名をなさしむ。

13 大石 波打
メ メ

短評 波打得意の面はたちまちに大石の而上深く斬りさげて一點を取る。大石奮起して突撃すれど、に波打一日の長あり。接戦數合、再度の面は波打より發せられ大石遂に城下に盟ひす。

14 〔平〕小川 ドメ
ド

短評 守勢の兩者共に出ず、所々小競合あるのみ。かくてはいつ勝負のはつききざと思はれる折小川の奇襲胸にきまつて平田一點を先ずゆづる。平田自重の色あり、暫らくして、のびたる間合の面一本、セームとなりて再び兩者守勢になりたれど先取の胸に氣をよくしたる小川の再度の突撃に平田敗る。

15 〔森〕橋爪 ×

短評 兩者の腕は互格と見たり。丁々發止亂撃に遂ふ亂闘龍虎の争ふや共に傷つき倒るゝと、けたしこの事ぞや。空しく時はたてど遂に勝負の決せず引合となる。時四時三十分。

これより先生指導の終末運動ありて解散す。當日試合不參者千賀池田、後藤、中島。

劍道部練習日規定

毎日、二時半—四時半

日曜祭日、正午—四時

但し學期試験前十日は練習を休む。

夏期休暇、十日間 土用稽古

冬期休暇、五日間 寒稽古

春明休暇 一週間 劍道講習會を開催す。

秋期休暇 一週間 劍道講習會を開催す。

部員名本科 千賀、池田、伊藤、矢野、後藤、中島、矢田、竹内

大井、野田、佐藤、瀨谷、坂野、河村、廣田、浪打、小川
二年 橋爪、大林、柴田、唐渡、阿部、鈴木、大石、大島、渚、
中原、三浦、森口、平田
一年 山田

五月四日、一年生部員募集の結果左記の者の入部を見たり。

甲木光雄、山田義秋、阿部典光、武藤好一、野田貞夫、五
島好男、伊藤定雄、矢野實生、中村仙台、高橋忠夫、廣田
美和、安藤政一、水野忠雄、松田利雄

劍道

甲山

破邪眞術起扶桑 百鍊大成嚴有方

正己其容君子仗 發爲臣道養忠良

劍道部創立に際して中島先生より部員激勵の爲おくられしものなり。

劍道



美

そもそも劍道はいつの頃から始められたかを考へますとそれは昔々その昔神代の頃、武鸞槌命經津主命がお始めになりましたその後景行天皇の御代に日本武尊がその術を更に改良せられて三ツの重要なる術にわけられました。その後八幡太郎、源義家が是を

學はれて更に研究せられて五ツの術にわけられました。そして段々世の中に廣がりまして、鎮西八郎爲朝は肥後之住人尾伊手次郎大夫則高に従つて劍術を學び牛若丸は鞍馬山の高僧から習ひましてその劍術のほまれは世に名高かつたのであります。その頃より常陸之國の鹿島、香取の兩神宮に宮仕へされる人々の中でこの劍術の上手な人が七人ありました。この人々が劍術を教へる事をもつて専門にされる様になりましたので世の人々は是を關東七流と云ひました。今から七百年許り前の事です。

その頃下總之國(今の千葉縣)香取郡飯篠村之住人に飯篠山城守家直と云ふ人があつて幼い頃から劍術が好きで三度の御飯より劍術の方がいゝと云ふわけで、毎日「稽古をしまして大變上手でありました。ある日の事であります、彼は思ひますには私は人間として劍術は是以上上達する事は出来ぬ、一つ神様にお願ひして秘術をさづかりたいものだと考へまして、それから、何日かの間鹿島香取神宮に參籠しましてお祀りしました。あまりに熱心なので神様も遂にお承知になりまして秘術をお授けになりました。家直は大に喜ひまして、是に天真止傳神流と流名をつけまして世間に發表しました。そして長威齋と號しまして相不變劍術を熱心に研究されました。そして劍術をして 武術の根本とされたのであります。世人はこの方を稱して劍道の始祖と申しますが、げにやもつとものであります。

此の長威齋家直につきまして一所懸命種古しましてその極意をゆるされました人々に塚原土佐守(卜傳のお父さん)諸岡一羽、松本備前守政信等があります。

それより少し後に上州の箕輪城主長野信濃守の家來に上泉伊勢

守と云ふ人がありました。此の人は昔若い時分に愛洲陰流を愛洲移香と云ふ劍聖に學びまして大變強くありましたが大人になつてから種々工夫をしました結果一流をのみ出しまして神陰流と名づけました。この人は日本國中を歩きまして大に流義を廣められまじな結果、神陰流の名は大に天下にさるりました。その門人に神後伊豆守、正田又五郎、卯生但馬守宗巖等のエライ人がお見へになります。

卯生但馬守は後に卯生流を編出されて徳川家康に仕へて大に功勞のあつた人たそです。この流の本家は今でも東京に居られます。くはしい事はそこへ行つて聞きなさい。

さて此の時分に、中條兵庫助と云ふ人が相模之國鎌倉に居りまして、お坊さんの慈音と云ふ人から「末頼もしき奴じあなあ」と見こまれた結果、劍術之奥義を授けられました。

そして是を世に傳へましたので是を中條流と云ひます。この中條流を習得しましたエライ人々の中で富田五郎左衛門入道勢源と云ふ有名な人がありました。この人の門人で鐘捲目齋と云ふ劍客がありました。この鐘捲目について劍術を學んだ人に伊藤一刀齋景久と云ふ人がありました。この方が一刀流を編み出されて、後世永く傳へられました。この一刀流は……さつげたいのです。がくたびれましたから次號に書きます。

神陰流秘歌

いづくにも心留らば棲かへよ

ながらへば又本の古郷

皆さん、劍道の練習をする時、この歌を三度、心の中でくり返しなさい。

卓球部記事

惜別卓球大會の記

荻野生

三月二十一日、卒業式後、惜別卓球大會が開かれることになつた。これは新卒業生が母校を去るに及んで、最後の大会である。此日、卓球ホールに出陣した面々、二十餘名、悉く一騎當千の猛者、日頃鍛えに鍛えた腕の力を試さんと必勝の意氣を眉宇の間に漂はせて居る。

先づ校主の注意があつて抽籤によつて番組が決定せられ、後藤校主並に小和田、荻野兩先生審判のもとに試合は二台のコートで始められた。各選手の必勝を期しての妙技、今日を限りの奮戦忽ち起る卓上銀線の亂舞。息もつかせぬ有様である。強敵を屠つて優勝戦線へ突進するもの武運拙く恨を吞んで退くものこのところ一大修羅の巷と化した。

かくて回は次第に進み血戦二時間餘りで左の諸君の優勝に歸し後藤校主より夫々賞品の授與があつて一同散會した。

- 一等賞 鈴 木 繁 正
 二等賞 久 野 正 夫
 三等賞 若 槻 隆 文
 四等賞 淺 若 貞 吉

あゝ惜別卓球大會。それは巢立ち行く各闘士の胸に如何に思ひ出深いものであらう。僕は今尚若武者世の凜々しい姿が眼の前にちらつて居る。

卓球部長就任に際して

荻野正次

去年の八月卓球コートが新設されてから皆喜んで練習を初めた其後新校主の就任せらるゝに及んで更にコートの増設があり練習も白熱化して来て立派な腕前の者が輩出するに至つた。更に本年四月にはこれを秩序立つた組織として娛樂、運動としての外に馳名を校外に轟かし中京卓球界に君臨せんとの目的のものに名を名古屋電氣學校卓球部と稱し部員制度が設けられた。そして僕は部長と云ふ役目に任せられた。考へると此任務はなかく重い。僕にそれが出来るかどうか。たゞくシンパサイザー諸氏の御鞭撻と部員諸君の奮闘に待つのみ。

卓球リーグ戦

五月中ニ晝、夜間部共ニ各級選出ノ選手一組五名宛ヲ以テリーグ戦ヲ行フ事ニシマシタ。夜間部ニハ隠レタル優秀者ガ大勢居ルヲシイカラ此リーグ戦ハ見物デアラウト思フ。

此ノ結果ハ次號ニ掲載シマス。

運動用具を愛せよ

樂器を粗末に扱ふ者に立派な音樂家は無い。グローブやミットをほりつ放しにしたり、バットを亂暴に投げ出したりする者は野球をする資格がない。ピンポンについても同様である。バットをていねいに取扱はなくては技も上達しない。音樂でも野球でも先づその精神から養つて行かなくてはだめだ。

野 球 部 記 事

江 本 巴

四月新學期開始と共に各學年チームは練習を開始した。
四月二十五日野球部員會を開き次の委員を任命した。

- 一、部長代理 大島 茂樹
- 一、マネージャー 眼部 繁雄
- 一、コーチャー 大島 茂樹
- 眼部 繁雄
- 荒木 國美
- 一、主將 本科 大島 茂樹
- 二年 野崎

一年生は五月より加入させることになつてゐて、また主將は決定しない。併し小學生時代野球選手として活躍したものが相當にあつて將來を囑望されてゐる。

時々練習試合を行つてゐるが、四月三十日覺王山で執行された追用法會の後今池球場に於て職員對二年の試合は十四日對八で職員軍が大勝した。

職員軍を加へて五月二日よりリーグ戦を開始した。日割は次の通りである。

- 五月二日 本科對二年第一回戰
- 五日 職員對一乙 全
- 六日 二年對一甲 全

- 七日 本科對一乙 全
 - 八日 二年對一甲 第二回戰
 - 九日 職員對一甲 第一回戰
 - 十一日 二年對一乙 全
 - 十二日 本科對一甲 全
 - 十三日 職員對二年 全
 - 十四日 一甲對一乙 全
 - 十五日 二年對一乙 第二回戰
 - 十八日 職員對二年 全
 - 十九日 本科對二年 全
 - 二十日 一甲對一乙 全
 - 廿二日 職員對本科 第一回戰
 - 廿三日 二年對一甲 第二回戰
 - 廿五日 職員對一乙 全
 - 廿六日
 - 廿七日 本科對一乙 全
 - 廿八日
 - 廿九日
 - 三十日 職員對本科 全
- 第三回戰は廿二日以後適宜舉行す。
尙六月二十七日(開校記念日)にリーグ優勝チームと第二位チームの對抗試合を行ふことになつてゐる。
リーグ戦のトップは五月二日本科對二甲の第一回戰で切つたが八日對四で先づ本科が一勝した。兩軍のトータルは次の通りである。

旅行部記事

K 生

春！春來れば旅情坐に動く。

人々は山に！水邊に！！春の訪れをきかんとす。新學期の日曜日を利用して自然の姿を慕ひて心ゆくまで味ふは我等若人の歡びなり
 四月中旬、余寒漸く去りて快適の時候、第一回のピクニックあり
 時 日 四月十九日 日曜日 午前八時出發

集合地 學校

目的地 龍泉寺

往復徒歩とす

ピクニックの目的 身体の鍛練

携帶品 晝食

參加者 後藤先生、玉置、江口、福田、藤卷、松永、大田、岩澤

濱淵、大林、深田、島田、鹽見、道田、今井、廣田、他

七名、計 二十二名

午前十一時 龍泉寺着、晝食。午後一時歸途、途中白澤遊園地にて小休、數名プールにて泳ぐ。午後三時守山町守山口着解散す
 此の日天氣快晴、大に愉快なりき。

第二回ピクニック參加者募集

集合地 學校 目的地 桶峽間

往一徒歩歸一電車（電車賃約三十錢持參）

携帶品 晝食

日時 未定（日曜日利用） 申込者は部長に。

實驗室だより

太田 浩

電氣實驗室では新たに配電盤を据付け又東京芝浦製作所製一KVの柱上用油入單相變壓器二台を購入した。これらによつて種々の實驗をなし、講義ばかりではわかり悪い所を幾分でも了解し易からしめ様とするもので設備の充實を圖りつゝある。

殊に最も新らしき試みとして植物の電氣栽培を行はんとして具體的に其の試驗に着手した。今まで電氣を農業方面に應用したるものは種々あるであらう。農業の電化といふ言葉が各方面に使はれてゐるのにも見ても近來各種のものに電氣を利用しつゝあることを察することが出來やう。或は人の勞力を省くべき機械の運轉に電氣を應用し、或は光として又熱として植物の成育を助長せしむるなど實際に用ひられてゐるもの、試験的に行はれてゐるものなど數多く見受けられる。然し電流として直接に植物に應用する方は未だ其例少く其の結果の發表されたるものも至極稀である。此の試驗に着手はしたものの、農事には經驗なき素人の事なり果たして何程の成績を擧げ得るか心細い次第なれど之が動機となり此の方面の研究家増加し、色々の實驗結果が發表さるゝに至らば世を益する一端ともなからんかとも思ひ最善を盡したい。何卒皆さんの御後援を祈る。

ある電気屋

畫本科 山上 進

今から七八年前の事だつた。僕の父親が變電所に勤務して居た時、其所に三十七八才位の年かつこの社員が變電所に働いて居た。さうもその人は生意氣さいふのか、大膽さいふのか區別のつかん狂人みたいな人で僕が度々其所に行くさいつもえらさうに自分のオールバックにした頭の毛が電氣の導体に引かれるのを面白さうに、さうだ、やれるか、きついたらうてな面をして僕の方を見る。當時何にも知らん僕ですら若し長い毛がすひさられて、頭から死んでしまふになあと思つた事が度々であつた。

或る月の一日に發電所が休みであるからして、その人は、各變電所内の機械を掃除するのであつた。夕方の五時少し前になつてよう／＼オイルスイツチのターミナルを掃除するのを忘れあわて、發電所へ「また電氣は送つてはありませぬね!!」と電話で問ひ合はせたなりで、あとの返事をたしかめずに、早速ぼろつきに油をしみらせオイルスイツチの上のぼつて行つてそこへ手をついたとたん「ヴァー」といふ音がしたと思ふと、さきの人がごたんと床の上に落ちて青い火を口や手や足から出して死んで居つた。自分はその姿を見て「是でこの人の一生が終つたのだ。つまり電氣に殺されたあわれな人だな!!」と思つた時に前の電話のことが思ひ出された。「また電氣は送つてありませんね」とこの次になげ「今から仕事をするからしばらくまつて下さい」と云ふことが云へなかつたか。この惨死は、日頃、電氣について輕卒であつた結果だ。つまり、自縛自縛と思はれた。

或る本に「電氣は恐るゝに足らず」と云ふ豪言があるが、つまり此の言葉をうのみした人が電氣に殺されるのだ「常に電氣は危険なものなり恐るべきものなり」と云ふことを頭に入れておけば決して電氣に見舞はれる心配はない。電氣を理解する人こそ電氣に對して餘計に注意を怠つてはならないと思ふ。たゞへ電氣が流れて居ないことが解つても、一度は絶縁棒で試して、よし一ボルトでも電氣は電氣だ危険な代物として大事に大事をふんで使用する人こそ電氣を安全にコントロールする眞のエンジニアであらう

斷 想

畫本科 伊藤 松雄

○感謝せよ、感謝すべし。「ネルソンはトラファルガーに於ける最後の瞬間にも感謝した」と。吾等はこの現在に感謝せなかつたならば恐らくは吾等の生涯を通じて感謝の時はないたらう。吾等はすべての境遇に於て感謝すべき充分なる理由を持つてゐる。有難い、有難い、有難う、有難う、吾々はこの言葉を毎日連發すべきだ。

○誰よりも多く働き、誰よりも多く苦しむ事を自分の務としたい
○根を張れ、さうすれば枝は何時でも繁る。目にみえない無数のひげ根を張れ。

○大きくならう。大きい人間にならう。小人となる勿れ。つまりぬ口論に勝つて何になる。そんな物は負けるが勝た。

○「手折りたる人に薫るや梅の花」この心持で人に接したい。

○己を思ふ如く人を思ふ。己が人に慾する所を己が人に行ふのた
○たさへさんなに小さくとも善い事をした後の嬉しさ。心地よさ
○はつきりと、自分と云うものが解れば、さうしても威張れない
無暗にいばる人間（いばりたがる人間）が、むしろかわいさうで
ならない。

善に憧れる心

書本科 鍋島義光

偉い人の事を聞くと頭が下る。
出来ぬながらも善い事をしたい。
悪い事を悪いと知りつゝもした後の苦しきよ。
悪人と呼ばれるものにも必ず善い芽がある。
おいしいものを他に與へたとき、満足する心が湧く。
自分には苦勞を。他の人には榮譽を。
誰から、ほめられなくとも自ら善いと思ふことを、かくれてす
る程嬉しいことはない。

人の運命

夜本科 和田義雄

人の幸不幸は總て之運命の支配である。
運命とは何ぞや、其れは決して我々の目耳鼻等に依つて自由に

明かにする事は出来ないものである。

人運命とは決して相離るゝ事の出来ないものである。此の身
体有れば、必ず其れには影の如くに運命もつきまとうもので、之
を決して人々は無いと斷言する事は出来ないものである。

萬人寄れば萬人共に幸不幸の區別は有るもので決して之をバラ
ンスする事は到底不可能である。

日進月歩、文明國に成るに従ひ人々は皆此のひにくの運命の支
配に一層惱まされるものである。

生後に於いて如何に我々で辛苦するとも、此の運命を人力に依
つて左右する事は出来得ない事である。

如何に學者又宗教家が運命説、所謂、因果説、宿命説を稱へて
も、其れは只一つに我々の心を慰る所の遊戯的の言葉に過ぎない
ので有る。

世には不具の身に有りながらにして天才あり、其の身満足に生
れながら自己の名前すら書けぬ白痴すらある。又金殿玉堂の内に
生れ身に錦を以て幸福に育てられる者有れば、いらか破れて落不
斷の香を焚く語の如く、雨戸は破れても寒風に身を包む一片のぼ
ろ片さへ得る事の出来ない貧家に育てられる者も有る。

單なる出産にさへ我等の上に上中下の差有り。増して生長して
世に立ち日に月に走馬燈の如くに移り行く此の世界に生活の爲か
食ふ爲か何れにしても人生の最も忌むべき死の直前まで此の幸不
幸の差有るは當然の事と思ふ。

我等の前途は一寸先は暗である。一舉一動總てが運命の支配で
有る。されば斯の如き運命有ると信する所の吾人は如何なる不慮
又苦境の道をたざるも心に自己を知り之自己が天命として

ず、其の差配に従ふ所の精神が必要ではないかと思ふ。徒に興奮にかられ騒ぐ者こそ、愚と言ふべきで有る。我等は宜しく「人事を盡して天命を待つ」所の精神を持ちたい。

ク ラ ス 會

畫像二 小 出 棟 雄

昭和六年四月十五日（水曜日）は我等二年乙組の級會があつた五時間目の授業後、級長のあいさつで、其の次に各先生の御あいさつあり、それよりいよく無禮講にはいつた。或る者は歌を唱ふ、又或る者はハーモニカを吹く、或る者は話をする、仲々の盛大であつた。何時もよく人をわらはせるF君が「諸君は御行儀がよろしいから立喰ひといふことを知らないでせう。僕が一度喰つてお目にかけてよう」といつて、とても大きな甘いまんじゅうを手にさつて立喰ひを始めた。皆の者は一度にさつと笑つた。O君等は軍歌を間違つた所は、無茶苦茶に云つて、愉快に且つ節面白く出ない聲をはりあげて唱ふ、あれでは明日、聲が出ないたらうと心配する位彼は歌つた。I君やM君は名古屋行進曲、桃太郎の歌をハーモニカで調子よく吹奏した。G先生は「でかんしよ」を二ツ三ツ歌はれた。S先生も何さかいふ歌を節面白く人間のまねをする所をやられる時は、とても美音で、素的な聲をあげて。一同の者は、酔つた如くにしんとして、うつさりと聞いて居た。誰か「お茶を十五六杯のんだら腹ががばくた」といつて皆を笑はせた。最後に萬歳を三唱して愉快に面白く此の級會を閉會した。

交 友 會

畫木科 伊 藤 松 雄

只今我が學校内にては交友會と云うものを組織してゐます、この會はそのクラスの有志者を以て組織するのでありますが私達のクラスでは現在の所始々クラスの者全体が會員に加入して居ます私達本科生は先週の土曜日即ち四月の二十五日にその第一回を開きました。その模様を簡単に述べませう。

最初に点呼を致します。次に先生の來場を願ひます。今度の會には和田先生、風間先生、太田先生、中島岬先生、江本先生、兒川先生、小和田先生、中島光男先生、等の諸先生の御參會を得ました。

會の順序は、一、開會の辭 二、顧問挨拶 三、會計報告 四、動議 五、餘興及び五分間演說 六、閉會の辭であります。

「開會の辭及び會計報告」は大抵その時の會長及び會計係が夫々する事になつてゐます。「顧問挨拶」の所で私達は諸先生より種々の訓辭や有恩義なる話を聽きます。「動議」にては互に忠告し合ひ各自の氣附いた点を述べてクラス全体の向上修養に努めます。今度の會の動議に於ては「先生をもつと尊敬しなければならぬ事。授業中にもつと眞面目に學習せねばならぬ。」の二件について決議しました。

續いて余興及び五分間演說の時には、隠し藝をするものもあり笑話、考へ物等夫々の事を致します。或は又堂々ご自己の抱負を

述べた熱辯者もありました。今回に於て一番の花形は、小和田先生の指揮によるハーモニカバンドの演奏でありました。

この會によりまして吾々は、クラスメートの親睦と修養とをばかり、模範的學生たらんことを期してゐるのであります。

私達は今後に於て一回毎に會の本分を發揮する事、會の内容を充實する事に努力し、出来る限り度々開催して、益々本會を意義あらしめ發展させたいと望んで居ります。

水力發電所見學記

畫本科 谷口 正

去る四月廿六日(日曜日)に吾々本科生一同は川島先生並に土屋先生(江本先生、太田先生事故の爲歿席)兩先生引卒の下に東邦電力株式會社玉野川水力發電所を見學した。朝は曇り勝ちの天氣であつたが午後は日本晴、見學には丁度持つて來いの好天氣であつた。朝八時半迄に千種停車場に集つた。中には七時時分から集まつてゐた熱心家もあつた。

やがて午前九時十八分の多治見行列車に乗り込んだ。十時頃高藏寺驛下車徒歩にて約十五分にて目的とする發電所に達した。

此の水力發電所は二年前から運轉休止中なる故、土砂吐水門からは非常な壓力を持つた水が飛滴を飛ばして流れてゐる様は何んとも形容し難い壯觀であつた。やがて所員が來られて順々親切に説明せられた。因に此の發電所電力は前(運轉中は)坂下、高藏寺兩町を初め近村へ直接配電しておつた。此の發電所の水路の亘長

は約六五〇〇尺、水路の勾配5/100(全國に於ても極稀)有効落差三五尺(全國に於ても稀)一秒間の流量は約三〇個、機械類は皆米國のウエスチングハウス電氣會社製造のもので、水車はフランシス水車の横軸のもので、發電機は三相交流發電機、發電機出力六二五K・V・A、電壓三三〇〇V、電流一〇九A、六〇サイクル、一分間の運轉數四五〇、此の發電機の直徑は約二米、之れに要する勵磁機もやはりW社製のもので、此の勵磁機の出力は發電機出力の約4%で二〇K・V・Aの内外であつたと記憶する。又所員の談に依ると此の發電所は一KW當りの建設費は約七五〇圓(現在約四五〇圓)位かゝつたそうです。此の發電所は大正十年頃建設したと云ふことです。

前述の通りに此の發電所は發電機から直接に配電してゐるから變壓器の設備はない従つて小さな發電所ではあつたが非常に整頓してあつたのにはさすがの僕もいさゝか感心した。

次に配電上の注意とか、塞流線輪の効用、又母線等の専門的な説明をせられたのでよくは分らなかつたが然し此の發電所見學で大に得る所があつた。十二時過ぎ厚く御禮を述べて晝飯を食べて辭去した。午後五時迄山水の美を以て鳴る定光寺遊園にて楽しく春の一日をすごして歸途についた。

野球部追記

一年の主將は次の様に決定した。

一甲 桑田玄彦 一乙 三島佐太郎

尙本日までのリーグ戦績は次の通りである。

職員	0614000	一甲	00305	16A	8	コールド
一乙	363035A	二年	35332A			ドム
木料	0002000	二年	417	12		コールド
一乙	一二三四五六七	一甲	一二三四五六七	1		ドム
職員	361113					ゲル
一甲	一二三四五六七					
	30624A					
	15A					

昭和六年度遞試第三種一次試験問題

一般

- (1) 20「オーム」の抵抗線三條あり、其の全部を組合せ之を100「ヴォルト」直流二線式回路に接続し四種の異りたる合成抵抗を得むとす。其の場合の接続方法を圖示し且消費電力を算出せよ。
- (2) 三馬力の電動機一臺を使用する需用者あり、毎日全負荷にて四時間宛運轉するものとす。一箇月(三十日)の電力料を算出せよ。但し電動機の全負荷の能率は84「パーセント」とし料金は下記の規定に依るものとす。
 - 一馬力に付一箇月の使用電力量
 - 100「キロワット」時迄一「キロワット」時に付六錢
 - 一馬力に付一箇月の使用電力量
 - 100「キロワット」時超過分二「キロワット」時に付四錢
- (3) 下記發電機の並行運轉に於て一機の勵磁電流を増加せば如

何なる結果を生ずるや其の差異を簡単に説明せよ。但し發電機の廻轉數は變動せざるものとす。

- (イ) 直流分捲發電機
- (ロ) 同期交流發電機

(4) 下記のものに付き簡単に説明せよ。

- (イ) 檢壓器 (Voltage detector)
- (ロ) 挿込型接續器
- (ハ) 餘水吐
- (ニ) サーマスタット (Thermostat)
- (ホ) 注人柱

次號原稿締切 六月三十日

昭和六年五月十日印刷
昭和六年五月十二日發行

【非賣品】

編輯人 小和田
印刷人 渡邊 榮三郎
發行所 名古屋市中區新榮町三
名古屋電氣學校
印刷所 名古屋市中區南伊勢町二
中京毎夕新聞社